

平和憲法・9条をまもる 岩手の会 ニュース No.134

2016.12.6

発行：平和憲法・9条をまもる

岩手の会 実務者会議

連絡先 県生協連・県消団連

TEL019-684-2225

FAX019-684-2227

12月8日は何の日か知っていますか？

～71年間に亘る平和の努力を覆し自衛隊「武器使用」=「戦争」をさせる国にした安倍首相～

1941年（昭和16年）12月8日、日本軍の真珠湾攻撃で3年6か月に及ぶ太平洋戦争が勃発。この12月はアジア・太平洋戦争での敗戦71年目、戦争、敗戦の教訓を改めて噛みしめる時です。にも関わらず、安倍自公内閣は「安保法制」に基づき、南スーダンに派遣する自衛隊に新任務「駆けつけ警護」等を付与。これは、日本国憲法に基づき海外で一発の銃弾も撃たせなかった自衛隊に、「武力行使」・「戦争」させること。これまでの日本国民の平和努力に反しています。加えて、「自衛隊は訓練をし、習熟度を高めているからリスクは高まらない」等と発言する前閣僚までいます。そうであっても、銃弾を発射することができることで相手は反撃し、「撃ち合い」「交戦」=戦争になります。

日本国憲法前文では、「戦争の惨禍を繰り返さない」と明言しています。今改めて、「戦争をやってはならない！」と訴える若者たちの声を紹介します。

◆自分の子が誰かを殺すか殺されてしまう…考えると普通ではられません

岩手民医連 遠藤洋史さん

10月22日～23日に青森県三沢市で行われた、「日本平和大会 in 三沢」に参加しました。

心に残ったのは、元自衛隊員や自衛隊員の子を持つ母親の胸の詰まるような思いのこもったお話でした。「自分の子どもが誰かを殺す、あるいは殺されるかもしれない」。もし、自分がそんな立場に置かれたら…と考えると、普通ではられませんでした。

そして、それは決して他人事ではないことも実感しています。南スーダンでの「駆けつけ警護」付与によって、71年間守り通してきた世界に誇れる日本の平和意識が崩れることになります。戦争は、兵隊だけではなく家族や一般市民、人間に限らずありとあらゆる生物を犠牲に巻き込む負の連鎖です。今まで、歴史上正当だった戦争はありません。

改めて9条を守り、戦争に反対し続ける思いが募る大会でした。

ドキュメンタリー映画「ザ・思いやり」の監督リラン・バクレー氏とのツーショット。指の数が9条の9本



◆あきらめず、いろんな人とつながって平和を守りたい！ いわて生協労働組合 神部友佳さん

昨年9月、国民の反対の声や説明不足という声を無視しての「戦争法強行成立」。そして自衛隊に「駆けつけ警護」など新任務を付与し、南スーダンへの派遣。今まさに「戦争する国づくり」が進んでいて、自分の子どもたちが大人になる15年・20年先も、憲法9条が輝き、平和とくらしが守られる日本であるのだろうか。と最近すごく不安に感じます。

戦争は憎しみや報復を産むだけ。武力では何も解決できません。今の私たちには、広島・長崎で被爆された方から直接話を聞いたことを次の世代につなげていく、平和を継承させていく大きな役割があります。あきらめないでみんなで声を上げていくことが、子どもたちに平和な未来を残していくために必要なこと。職場の仲間、地域、いろんな人とつながり、平和を守っていきたいです！

~~~~~◇ 各9条の会などの取り組み ◇~~~~~

賢治のほんとうの心に学び、戦争のない平和な世界を受け継いでいきたい

～松園9条の会10周年のつどい～



10月22日に、賢治童話アニメ「種山ヶ原の夜」の上映と記念講演「宮沢賢治の戦争認識と平和の思想」を行い、84名と子ども4名が参加しました。

講師の吉見正信さん（賢治研究家）は、「賢治は時代が戦争にまっしぐらに進む中、「ほんとうのさいわい、しあわせ」がどこにあるかしっかり見つめていた。そして、『憎むことのできない敵を殺さないでいように早くこの世界がなりますように、そのためなら私の身体など何べん引き裂かれてもかまいません』（鳥（からす）の北斗七星より）という言葉や、『世界全体が幸せにならないうちは個人の幸福はありえない』という考えに、賢治のほんとうの心が集約されている」と説明しました。

## 市民＋野党 草の根の共闘で未来を拓こう！

～革新懇いわて「木下ちがや氏講演会」開催～

11月3日に140人が参加し、「3.11から日本政治の変革へ」と題し、明治学院大学国際平和研究所・木下ちがやさんの講演会を開催しました。

木下さんは、今年の憲法記念日集会参加が4年前の5千人から5万人になったことで、「それだけ憲法が価値観や考える基準として戻った。それを生み出したのは市民と野党共闘の力で、安保法制や脱原発で9条の会や革新懇とつながっていった」と話しました。また、安倍政権は民衆の思いを受け止める回路のないことが問題で、それをもう一度作り上げることが社会運動の役割と説明。「その役割を沖縄や大阪・岩手、ママの会やシールズなどのグループが果たしてきた。岩手の共闘は世論を受け止める回路ができています。そうした回路を網の目のように張り巡らせて強靱な絆にし、安倍政治への対抗軸を岩盤のように強めていくことだ」と締めくくりました。



コラム

自衛隊員のみなさん、銃弾を一発も撃たずに帰国してください！  
平和国家の国民は待っています！

12月12日、安倍政権は「内戦状態」の南スーダンに派遣した自衛隊第11次隊を「駆けつけ警護」「宿営地の共同防護」等の任務に就かせました。しかし、武力の行使は「限定的」、危険な状況であれば「撤退」させるという。現地の自衛隊の部隊にとっては、「無責任の極み」としか聞こえないと思います。

「平和憲法」下の日本国民は訴えます。「自衛隊員のみなさん、銃弾を一発も撃たずに帰国してください！」と。国民、県民は声を大にして叫びましょう！

ノルウェー政府は、フィリピン政府と反政府「武装勢力」の「平和の和平交渉」のテーブルを、首都オスロに設置して交渉させました。「平和憲法」を持つ「非武装・中立・平和外交」の日本政府は、今でもノルウェー政府に勝る「平和の和平交渉」のテーブルを首都東京に設置して、南スーダン政府側と反政府側を交渉の「テーブル」に着かせることが求められています。歴代自民政権と安倍政権は、何故これを考え付かないのでしょうか？

私たちは、安倍自公政権とその補完勢力をしっかりと一人残さずに見極めましょう！そして決して忘れまい！（T）

今月の署名行動

今月は、9日（金）12：00～12：45「野村證券前」です。  
9条改正を狙う安倍政権に、「憲法を守れ！」「立憲主義を守れ！」の声をあげましょう！